

部局名	教育委員会	所属名	指導課	所属長名	太田 公昭	電 話	481-0301
-----	-------	-----	-----	------	-------	-----	----------

1. 事務事業の位置付け・概要（P L A N）

コード	3389		事務事業名称	読書教育推進事業					短縮コード	経常	3389	臨時	
予算区分	会計	01	一般会計	款	10	教育費	項	01	教育総務費	目	03	教育振興費	
区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務 ☐ その他				根拠法令等		学校教育法第85条、学校図書館法第4条第2項、第6条、子どもの読書活動の推進に関する法律						
事業概要（事務事業を開始したきっかけを含めて記入）													
児童生徒の読書活動の充実のために読書感想文コンクール，図書主任研修会の開催，読書指導員の配置を行っている。													
事務事業を取り巻く状況の変化 又、今後の変化の推測					総合計画の施策体系	5本の柱（章）	02	人間尊重都市をめざして					
新指導要領改訂の柱として「言語活動の充実」が示され、読書教育の充実が一層望まれている。県の読書感想文コンクールへ代表作品を出品し、平成21年度は4作品が入賞、さらにその中から1作品が全国コンクールでの入賞も果たした。「子どもの読書活動の推進に関する法律」を受け、本市でも平成21年1月「八千代市子ども読書活動の取組みについて」が示された。						大項目（節）	01	学校教育					
						中 項 目	02	義務教育					
						小項目（施策）	02	教育内容の充実					
						細 項 目	01	学習・生徒指導の充実					
03	心の教育の推進												
実施計画の計画事業													
計画事業の位置付けの有無				☐	計画事業期間		～		計画事業費		千円		

2. 事務事業の目的・指標・実績（D O）

対象 （誰を何を対象にしているのか）	小中学校図書主任，小中学校児童生徒及び教員						
手段 （具体的な事務事業のやり方、手順、詳細）	※平成21年度に実際に行ったこと： 各学期に1回の図書主任研修会開催。読書感想文集「やちよ」作成。市内全小中学校に読書指導員を配置。						
	※平成22年度に計画していること： 21年度と同様。						
意図 （何を狙っているのか）	図書主任の資質の向上。児童生徒を読書に親しませるとともに、基礎学力の向上を図る。児童生徒の読書活動の充実。教員の読書指導に対する見識を高め、推進を図る。						
ねらい（上位施策の意図）	入力対象外						
区 分			単位	20年度	21年度		22年度
				実績	計画	実績	計画
対象指標	指標1	各学校図書主任数	人	33	33	33	34
	指標2	読書指導員配置校児童生徒数	人	16,337	16,663	16,636	16,856
	指標3	小中学校児童数	人	16,337	16,663	16,636	16,856
活動指標	指標1	参加図書主任数	人	33	33	33	34
	指標2	各校図書貸出総数	冊	157,873	166,630	185,391	200,000
	指標3	読書感想文応募総数	点	8,828	8,800	8,713	8,800
成果指標	指標1	参加図書主任数／各学校図書主任数	%	100	100	100	100
	指標2	読書感想文応募総数／児童生徒数	%	54	54	52.4	54
	指標3	各学校図書貸出冊数／指導員配置校児童数	冊	9.7	10	11.1	12
上位成果指標	指標1						
	指標2						
	指標3						

コード		3389	事務事業名称	読書教育推進事業		所属名	指導課
			単位	2 0 年度	2 1 年度		2 2 年度
				実績	計画	実績	計画
事業費 (A)	財源内訳	国	千円	0	0	0	0
		県	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	7, 268	7, 533	7, 303	7, 860
		その他	千円	0	0	0	0
	主な事業費の内訳		読書指導員賃金 印刷製本費	読書指導員賃金 印刷製本費	読書指導員賃金 印刷製本費	読書指導員賃金 印刷製本費	
	人件費 (B)		千円	864	845. 2	845. 2	845. 2
ト ー タ ル コ ス ト (A) + (B)		千円	8, 132	8, 378. 2	8, 148. 2	8, 705. 2	

3. 事務事業の評価（SEE）

評価 類型	評価事項		評価区分	理 由					
目的 妥当 性	①事業目的が上位の施策に結びついているか？		☒ 結び付いている	上位の施策「学習・生徒指導の充実」の推進のため，読書感想文コンクール，図書主任研修会の開催，読書指導員の配置を行っており，結びついている。					
			☐ 結び付くが見直しの余地がある						
			☐ 結びつきが弱い・ない						
			☐ 評価対象外事項						
	②すでに所期目的を達成しているか？ ※「達成している」を選んだ場合、⑥に進んでください。		☐ 達成している	学校教育では，毎年，児童生徒が進級・進学し，対象となる児童生徒が入れ替わるため，単年度ごとに初期目的を意識した取り組みが必要と考える。					
			☒ 達成していない						
			☐ 評価対象外事項						
	③民営化で目的を達成できるか？ ※民営化・・・事務事業の全部又は一部の実施主体を全面的に民間事業者等に移行すること。 （民間委託は、権限に属する事務事業等を委託することで、民営化とは異なる。）		☐ 可能性はある	本事業は公教育として行っており，民営化にはなじまない。					
☒ 可能性はない									
☐ 評価対象外事項									
④「対象」・「意図」の設定は現状のままで良いか？		☒ 現状のままでよい	所期目的に変更はなく，現状の対象・意図の設定で結果に結びつく。						
		☐ 見直す必要がある							
		☐ 評価対象外事項							
有効性・ 効率性	⑤今後、有効性や効率性を向上させる可能性はあるか？ 可能性がある場合は、⑤－2，3を記入する。 可能性がない場合は、理由を記入する。		☒ 有効性向上の可能性はある						
			☐ 効率性向上の可能性はある						
			☐ 両方可能性がある						
			☐ 可能性がない						
	⑤－2 有効性や効率性を向上させる手段は何か？ 該当する手段を選択し、具体的な方法と得られる効果を記入する。手段が「類似事業との統合・役割見直し」である場合は、該当する類似事業を記入する。	☐ 民間委託等	2 2名の読書指導員のうち半数の1 1名が小学校，中学校の併任となっているため，読書指導員を増員し，小中各校に専属の指導員を配置すれば，児童生徒の読書活動が一層充実する。						
		☒ 臨時的任用職員等の活用							
		☐ I T化等の業務プロセスの見直し							
		☐ 受益者負担の見直し							
		☐ 類似事業との統合・役割見直し							
		☐ 上記以外の方法							
	⑤－3 推進にあたっての課題はあるか？（一時的な経費増・市民の理解等）	☒ ある	読書指導員増員に伴う経費増。						
		☐ ない							
		類似 事務 事業 名称	1		実施主体 (所管部署)				
			2		実施主体 (所管部署)				

コード	3389	事務事業名称	読書教育推進事業				所属名	指導課	
今後の方向性	⑥この事務事業の今後の方向性を選択し、その詳細について右欄に記入する。	☒ 改革・改善して継続			児童が活用しやすい学校図書館の整備だけでなく、児童への読み聞かせやブックトークによる読書活動の推進，教科領域指導の中での調べ学習への助言等，さらなる児童，生徒への読書活動の推進が望まれる。				
		☒ 手法プロセスの改革・改善							
		☐ 事業規模の拡大・縮小							
		☐ 統合・役割見直し							
	☐ その他								
☐ 廃止・休止									
☐ 事業完了									
☐ 現状のまま継続									
⑦この事務事業の今後の経費・成果の方向性について選択し、右欄に理由を記載する。			経 費			読書教育の一層の充実のため，読書指導員の中学校への専任配置，各校への配置時間の増加，さらには平成２２年度，２３年度における学校図書館図書電算化に伴う学校間図書配送システムの早期実現を希望するため。			
			削 減	不 変	増 加				
	成 果	向 上	☐	☐	☒				
		不 変	☐	☐	☐				
低 下		☐	☐	☐					

この事務事業に対する市民や議会の意見（担当者が把握している意見） ※内部サービス業務の場合は、住民ではなく、サービス利用者、関連部門の意見や実態など									
読書教育推進の核となる各校図書主任及び読書指導員等の資質の向上が望まれている。読書の効果が再認識され、学校や図書館における読書教育や読書活動のますますの充実が望まれている。									

所属長コメント	県の教育振興基本計画の中にも「読書県ちば」が示されているように，今後，読書教育を推進するための政策，社会的ニーズはさらに増加していくものと考えられる。また，市では平成２２年度，２３年度の２年間で，市内全小中学校学校図書館蔵書の電算化を終える予定であり，読書指導員の専属配置や学校間ネットワークの実現等，導入されるシステムを活かしながら，読書指導の一層の充実を推進していきたい。								
評価調整委員会評価	☒ 改革改善して継続			読書指導員の増員については，費用対効果を検証したうえで，順次推進すべき。					
	☒ 手法プロセスの改革・改善								
	☐ 事業規模の拡大・縮小								
	☐ 統合・役割見直し								
☐ その他									
☐ 廃止・休止									
☐ 事業完了									
☐ 現状のまま継続									